



【m-HANDS 2023 第 1-2 回の報告】

中国ブロックでの指導医養成の報告

出雲家庭医療学センター大曲診療所 藤原和成

広島大学病院 総合内科・総合診療科 小林知貴

岡山家庭医療センター奈義ファミリークリニック 松下明

【m-HANDS-FDF】

(modified - Home and Away Nine DayS - Faculty Development Fellowship)

8 年の間継続してきた中国ブロックの指導医養成コースです。今年度もオンライン開催です。8 月から 3 月まで、月に 1 回全 8 回のコースとして実施しています。

今年度も、JPCA-ML など募集して中国地方の指導医 6 名が参加中です。チームを作って様々な課題に取り組んでもらっています。

以下に第 1 回に参加してくれた指導医からの報告の一部を掲載します。

2024 年度も引き続き開催を予定しています、ご興味のある方はぜひご連絡下さい。

〈目的〉

中国ブロックの指導医の養成とプログラム運営の質向上を通して、プライマリ・ケアの普及と発展をめざす

〈対象〉

- ・中国ブロックに所属しており、家庭医療後期研修を修了した医師
- ・中国ブロックの家庭医療後期研修に関わる指導医

〈アウトカム〉

Core Competence : Adult Educator(成人学習支援者)

学習者と向き合い、その学びに気を配り、学びの場をサポートできる

教育者の役割と限界を知り、学習者と協同的に学び、生涯学習者を育てる姿勢で関わる

学習者の学びを促進するための理論と技術を適切に用いることができる 参加者と講師による学習共同体の形成を勧め、ブロック内の指導医ネットワークを作る

机上のプログラム作成だけでなく、各現場での仕組みづくりや教育チーム形成ができる

総合診療の魅力やプログラムの魅力を効果的に伝えられる発信力や求心力を発揮できる

ツールの活用や工夫などで独創的で質の高い遠隔教育ができる

第 1 回 オンライン開催 2023 年 8 月 12 日

【青年の主張】

3 分間で聞き手に何らかの具体的な行動を引き起こすことを目的としたプレゼンテーションを行いました。内容は様々でしたが、それぞれが聞き手の印象に残るようなプレゼンテーションを披露しました。その後、フィー

ドバックがあり、次回同じようにプレゼンをする時にどうすればより良くなるのか、という点が明確になりました。プレゼンは話し方、スライド表現、表情など様々な要素が組み合わさりますが、どうメッセージを伝えたら伝わりやすいのかを考えながら、それらの要素をより良くしていく大切さを学びました。(大塚裕真)

【FD 概論とエンプロイアビリティ】

FD 概論とエンプロイアビリティについて、講義を受けました。事前課題としての参考資料には FD に関する資料と、エンプロイアビリティならびにビジネス・スキルに関する資料がありましたが、最初は関連性が分からぬまま資料に目を通しました。資料の中でビジネス・スキルの 1 つとしての FD について学び、講義の中で、一スタッフから指導医、管理者へと立場が上がっていく医師において FD について学ぶことは、エンプロイアビリティを高めることに繋がると理解し、事前資料の関連性が腑に落ちました。エンプロイアビリティという概念は今回初めて知りましたが、医師においても雇用される立場であることを考えて自身を磨くことは大切であると感じました。(川口満理奈)

【ファシリテーション】

講師から、ファシリテーションの 4 つのステップ (共有、発散、収束、決定) と 4 つのスキル (場のデザイン、対人関係スキル、構造化、合意形成) の講義を受けた。その後グループに別れ「総合診療を目指す若手医師を増やすにはどうしたらよいか？」という議題でファシリテーションの実践を行った。当グループでは各々の具体的な経験を引き出し発散していったり、構造化して内容をまとめていった。議論を抽象化したり、論文を用いたりして構造化を行った。具体的なアクションをそれぞれのグループで考えた後、終了後はグループ間の議論を共有し、議論の発散・収束の方法論などについて改めて省察する場が設けられた。今後もファシリテーションをする場は何度もあり、今回学んだことを実践し習熟していきたい。(中井翼)

【フィードバック】

それぞれの参加者がこれまで受けた印象的なフィードバックについて事例提示し、それについて議論することでフィードバックへの理解を深めた。フィードバックには正解の形があるわけではなく、指導者の指導に対するスタンス、学習者の学習に対するスタンス、指導者と学習者の関係性などを背景に多様な形がとられうることが理解でき興味深かった。最後にフィードバックに関する最近の知見について講義があり、セッションが終了した(原武大介)

第 2 回 オンライン開催 2022 年 9 月 9 日 (土)

【ビデオレビュー】

前田、中井翼先生のビデオレビューを行った。前田に関しては、救急外来で初期研修医と複雑な背景の患者の方針について話し合いを行っている内容だった。改めて自分の説明のまとまりのなさを実感し、具体的に次回から意識できる改善点を示してもらえたことが大変学びになった。中井先生は、医学生 6 年生との医局での夕方振り返りの場面だった。丁寧で安心感のあるフィードバックであり、ご自身が感じている問題点があり問題として取り上げられなかった。ビデオレビューの準備を通して第三者目線で自分の指導を振り返ることができ、そのうえでの自分の感じている問題と他人の感じ方の差を感じられ学びが多かった。(前田啓佑)

【カリキュラム開発】

あらかじめ自分が関わっている教育活動をまとめたものを基に、カリキュラム開発のワークシートに沿って様々な要素に分解して書き込んだ。まず一般目標や個別目標や教育方略を考えたが、方略と目標の違いが理解できていないことを指導医から指摘された。評価も形成的評価と総合的評価に分けて設定した。

一般目標として「外来看護師が状態の悪い患者のトリアージや声掛けができる」「研修医が内科病棟管理ができる」「研修医が Walk-in 患者の問診や身体診察ができる・外来診療ができる」「外来スタッフがアルコール依存症患者に対する継続的なケアを行う」「医学生が一般市中病院の総合診療科の様々な診療内容を理解する」などが挙げられた。(吉國晋)

【リーダーシップ&チームビルディング】

それぞれが思うリーダー像や自分たちがこれまで行ったチームでの活動でうまくいった点やいかなかった点を共有した。チーム作りでは色々なリーダーシップの取り方があるが、今後は心理的安全性を担保した中で組織の方向性を定めていけるリーダーが必要なのではないか、というような意見が出た。その上で事前図書を読んできたこと踏まえて「砂漠からの脱出ゲーム」をチームに分かれて行って、ゲームをしながらチーム作りをしていく過程を体感した。実際にリーダーシップやチームビルディングについて参加者とも意見を出し合いながら共有できたことで、学びが深まり、今後の活動にも活きると感じた。(大塚裕真)

第3回は10月14日(土)を予定しています

